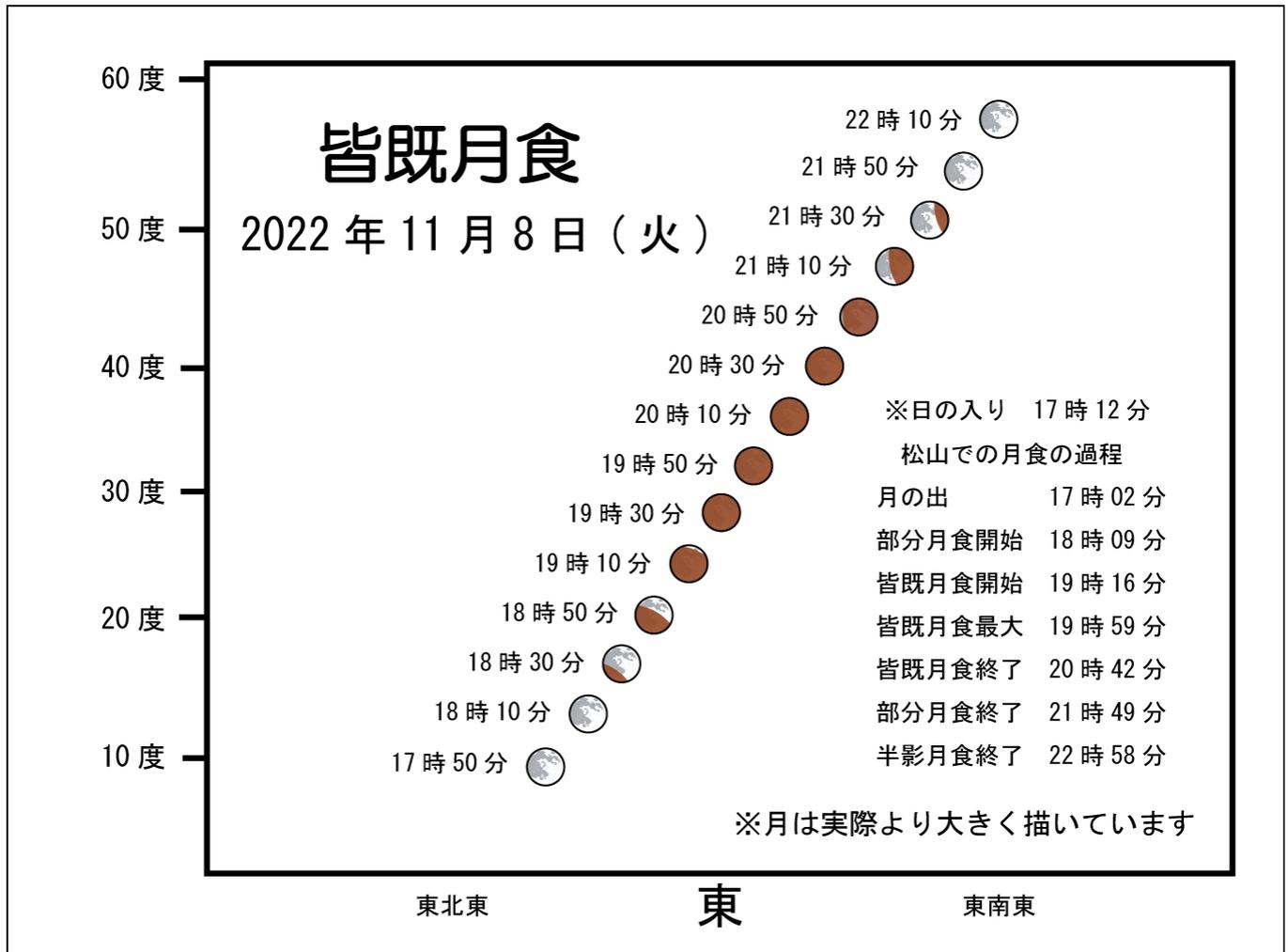


コスモシアターニュース 皆既月食特別号

★ 皆既月食が 2022 年 11 月 8 日(水)に見られる ★



松山の月の出は、17 時 2 分ころ、日の入りは 17 時 12 分ころです。月が見えてくるのは、17 時 30 分以降になります。ただし、18 時ころまでは、空が明るいので、月が見つけにくいかもしれません。また、月食の前半は、月の高度が低いので、東方向が見晴らしのいい所で観察する必要があります。

月食が始まるのは、18 時 9 分ころで、月の左下から欠けていきます。18 時 30 分ころには、欠けた姿がよくわかるようになります。月食の開始ははっきりせず、その前から、欠けたように見えるでしょう。

その後、18 時 50 分ころには、欠けた部分が大きくなり、月が暗くなっていきます。月食で欠けた月の部分は、完全に見えないのではなく、うすぼんやりと見えます。双眼鏡などを使うと、欠けた部分もよく見えるでしょう。そして、19 時をこえると、明るい所がほとんどなくなり、欠けた暗い部分が見やすくなります。また、月の輝きがなくなりなっています。

皆既月食が始まるのは、19 時 16 分ころです。皆既月食は、はっきりした境界がありません。あくまでも、目安と覚えてください。なお、皆既月食の間は、月はまったく見えないのではなく、赤銅色に見えるでしょう。

今回の皆既月食は、約 1 時間 25 分間ほど続きます。この間、同じ明るさではなく、皆既月食最大の 20 時ころが、もっとも暗くなります。皆既月食間に、月の明るさの変化があるでしょう。

皆既月食が終了する、20 時 42 分ころから、月の左側が輝き始めます。そして、時間が進むと明るい部分は広がります。21 時 10 分をすぎると、ほぼ月の半分がまぶしく見えているでしょう。その後、21 時 49 分ころ、ほぼまん丸になり、元の月に戻ります。これで、月食が終了となります。ただ、終了後も月がかすかに暗くなる、半影月食（はんえいげっしょく）が残っています。この半影月食が終了となる 22 時 58 分ころには、本当の満月の明るさに戻ります。

さて、次回の皆既月食は、2025 年 9 月です。また、夜半前に見られる皆既月食は、2026 年 3 月 3 日となり、しばらく見られませんので、ぜひご覧ください。

2022年11月8日の皆既月食の進行の様子(20分おき)



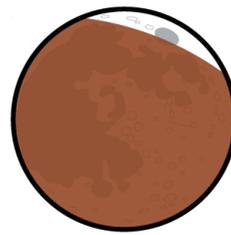
18時10分



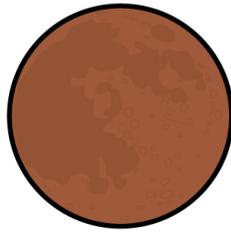
18時30分



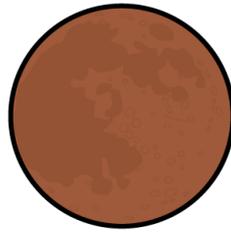
18時50分



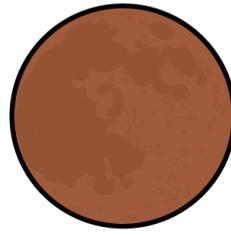
19時10分



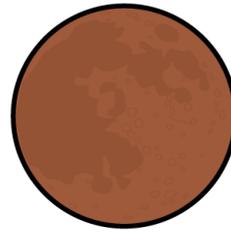
19時30分



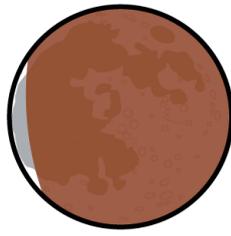
19時50分



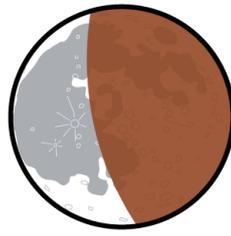
20時10分



20時30分



20時50分



21時10分



21時30分



21時50分

上の図は、月食の進行の様子です。図の下側が、地平線方向になります。月食は、月の左下から欠け始めます。そして、19時16分ころから約1時間25分間が完全に欠けて見える皆既月食となります。そして、20時42分以降に、左端から明るくなっていきます。なお、月食は、月の欠けぎわがぼんやりしているため、日食のように、はっきりした現象ではなく、おおよその時刻となりますのでご注意ください。

月食は肉眼でも楽しめますが、双眼鏡があれば、月の色の変化などもよくわかります。小さなものでもいいので、双眼鏡を用意して観察するといいでしょう。

月食は・・・

月は、太陽の光があたっている所が肉眼で明るく見えます。このため、地球から見ると、太陽の向きによって、光のあたるところが変わるため、欠けたり、丸くなったりします。また、地球によって太陽の光が月にあたらなくなると、欠けて見えることもあります。この現象を月食と呼びます。この月食の中で、月全体に全く光があたらなくなる時を、皆既月食(かいぎげっしょく)と呼びます。また、一部が欠けて見える現象を部分月食(ぶぶんげっしょく)と呼びます。前回の皆既月食は、2021年でした。また次回の皆既月食は、2025年9月8日、夜半までに見られる皆既月食は2026年3月3日となります。

月が欠けている部分は、地球の影に入って、暗く見える部分です。この影の部分は、地球の大気の影響で、ぼんやりとしています。このため、月が欠けている部分は、完全に見えなくなることはありません。また、欠け際もぼんやりとしています。結果として、月食が始まる時刻もおおよその時刻で、少し前から欠けているように見えます。

ところで、皆既月食になっても、月が完全に見えなくなることはほとんどありません。というのは、地球に大気があるためです。太陽からの光が、地球の大気で屈折して、月をわずかに照らすのです。この時の明るさは、地球の大気の汚れかたで変化し、大きな火山噴火の後などはほとんど月が見えないこともあります。写真で見ると赤く見える月ですが、肉眼では赤黒く見えることが多いでしょう。

さて今回の皆既月食はどんな色をしているのでしょうか。ただ、双眼鏡などあれば、より詳しく観察することができます。お持ちのものがあれば、ぜひ使ってみてください。

-----お問い合わせは、松山市総合コミュニティセンターコスモシアター 089-943-8228 まで-----